

事務事業 No./名称	■サービス部門 こども-29 あおぞら園管理運営事業 □支援部門		
主管課	発達支援室	関連課	こどもみらい課・保育課・こども相談課・市民健康課・教育指導課
分野名	健康福祉		
目標 (目標値)	障害児の専門支援機関として、一層の機能充実を図っていく。		

人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考
	人口	177,161人	176,669人	176,484人	
世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯		
事業の対象者数	6,031人	5,909人	8,677人		
運営資源状況	決算値(千円)	42,646千円	34,582千円	48,957千円	・一般財源の▲表示は、国・県からの施設給付費等が人件費を含んでいるため
	(国・県)	69,237千円	67,692千円	60,589千円	
	(負担金等)	4,740千円	5,043千円	5,454千円	
	(一般財源)	▲31,331千円	▲38,153千円	▲17,086千円	
	人員配置数	17.6人	18.6人	23.8人	
	人件費(千円)	151,524千円	167,296千円	223,560千円	
事務事業運営経費	協働のパートナー				・事業の対象者数は年間延べ利用数(知的障害児施設あおぞら園の延べ合計) なお、H20年度は(知的・地域リハ・言語の延べ合計)
	総事業費(千円)	194,170千円	201,878千円	272,517千円	
	市民1人当りの経費(円)	1,096円	1,143円	1,544円	
	対象者1人当りの経費(円)	32,195円	34,164円	31,407円	

ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名									

指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)
利用件数	◎	目標値					
		実績値	5,909	6,031			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統縮小 E:廃止・休止
あおぞら園運営事業	21,665千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要	知的発達等に躓きのある幼児に対し、保護者と情報交換しながら日々児童指導員、保育士等が集団生活や遊びを通して基本的な生活習慣や社会性の発達を援助する。		
あおぞら園管理事業	20,981千円	①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E	
	事業の概要	あおぞら園の施設管理及び通園バスの運行に係る経費を執行する。		
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A □B □C □D □E	
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A □B □C □D □E	
		①効率性 ○ ②妥当性 ○ ③有効性 ○ ④公平性 ○	⇒ □A □B □C □D □E	

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)	
H22年度の課題	あおぞら園における人材育成機能の充実を目指して作成したプログラムを本格稼働させていくこと、その中でボランティア活用の検討も進めていく。また、アクションプログラムの最終年度にあたることから、これまでの取り組みの結果をまとめ、主管課である行革推進課に提出するとともに、関係課かいを含め市長までの内容報告を行う。
課題解決のための取組	あおぞら園人材育成プログラムに基づいた、園内職員研修及び関係機関職員の研修や視察、見学会の積極的受け入れ。ボランティアについても、高校生や大学生を中心に、従来の行事への参加に加えて、活動プログラムについても枠組みを広げて受け入れた。また、アクションプログラムの取り組みの結果については、あおぞら園は障害児支援のハブ施設として公設公営で運営していくことが必要であると、こどもみらい部内では結論づけたところであるが、今後行革推進課との協議を通して、市の施策として位置づけていきたい。
未解決の課題	国の施策動向として、新たな総合福祉法(仮称)の実現までのつなぎ法案が成立し、(平成24年4月1日からの施行)その中で障害児施設の見直しが行われ、通所による支援を行う施設は児童発達支援センターに一元化されることが明確になったことから、新たな枠組みで果たすべき機能、役割についての検討協議が必要となっている。
今後の方針	障害児の専門支援機関として、その専門性の蓄積、継承や人材育成のハブ施設となりえるよう、その機能の一層の拡充を図るとともに、新たな枠組みでの障害児施設支援のあり方を検討していく。
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統縮小 E:廃止・休止 ⇒ A ※ □事業完了 課長名 発達支援室長 安田 明

個別事業の概要

小事業名	ザイムスコード	個別事業名	22年度予算	22年度決算値	個別事業の評価結果
あおぞら園運営事業	80	あおぞら園運営事業	26,425	21,665	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
あおぞら園管理事業	81	あおぞら園管理事業	22,606	20,981	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
					<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
					<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
					<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり
					<input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり